

# 支援車 I 型トイレ設備は 衛生面でもラップポンが決めて

## 火災・災害現場での隊員のトイレ

平成22年2月に導入された支援車は、災害現場において、活動隊員をサポートし、また、多数傷病者発生時には応急救護所の役割を果たす等、管内の安全・安心確保のために導入されました。車内には、キッチンスペース・ミーティングスペース・工具収納庫・トイレが完備されており、サポートに必要な装備はほぼ整っています。

災害支援はこのほど、長期スパンの展望から短期のスパンにも対応できるものへと変更しトイレの設置も配管設備等が必要ない簡易トイレが望ましく、その利便性から「ラップポン・トレッカー」が選定されました。

「これまでの災害現場でのトイレは民家でお借りすることもあれば、現場でどうしても処理をしなくてはならないことも多々ありました。この点で、手間をかけずに処理が完了する点でラップポン・トレッカーが適していました。」  
(野呂総務課長様)

## トイレは命に関わるもの

「防災商品における一般論として優先順位は1.飲・食料、2.衣類、3.トイレとされており、食料等は5～6時間我慢することが出来ますが、トイレは我慢できませんし、かつでの災害現場でも一次災害よりもエコノミークラス症候群などの二次災害の問題が取り上げられ、トイレの重要性が認知されるようになってきております。」(野呂総務課長様)

災害時の仮設のトイレは和式であるため、使用が困難な方も多く、汲取りが追いつかない場合、不衛生な状況になり、特に女性にとっては深刻な問題となります。災害時、最前線でトイレの状況を見、経験されているからこそ、衛生面でもラップポン・トレッカーが最適であると、導入に至りました。



説明会の様子

## Interview

総務課  
参事官兼総務課長  
消防監  
野呂 敏弘 様



支援車 I 型とは、、、  
地震・台風等の大規模災害時において長期にわたる活動を支援するため、大規模災害現場での情報収集・分析・連絡・指揮に優れた威力を発揮する消防車です。

松阪地区  
広域消防組合  
消防本部

市役所住所	三重県松阪市川井町1001番地1
職員定数	275人
管轄面積	767.86km <sup>2</sup>
消防署数	4(松阪中消防署・松阪南消防署・松阪北消防署・明和消防署)
分署数	5(三雲・飯南・飯高・多気・松阪勢和)